

基本指針

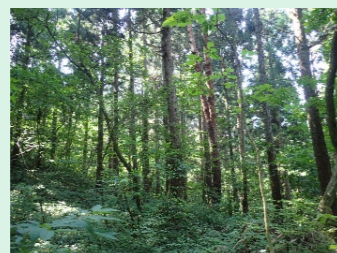
- 目指すべき森林の姿
- 県民参加による森づくり

⇒天然林を「里山林」と「保全林」、人工林を「生産林」と「混交林」に区分し、森林の状態や、地域ニーズ等を踏まえた、多様な森づくりを推進します。
 ⇒森づくりを推進するにあたっては、計画、実行、評価、改善の各プロセスにおいて、幅広い県民の参加を得ながら進めます。

混交林の整備

整備目標 500ha

奥地の人工林や竹の侵入した人工林を広葉樹との混交林へ誘導するとともに、森づくりに活用する県産広葉樹苗を県民協働で育成します。



広葉樹が生育している混交林

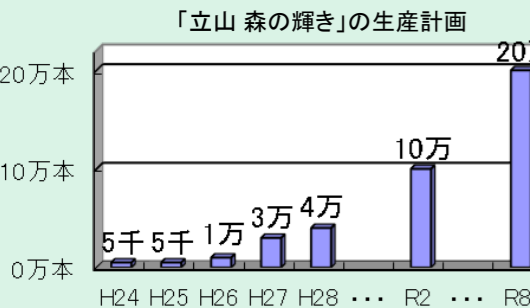
優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽

植栽面積 460ha

森林資源の循環利用と、花粉症対策の一環として、優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の苗木を生産し、スギ人工林の伐採跡地に植栽します。



「立山 森の輝き」の苗



スギ伐採跡地への植栽

水と緑に恵まれた県土を支える多様な森づくりの推進



里山林の整備

整備目標 2,200ha

生活に利用されなくなり、うっそうとした里山林を、野生動物との棲み分けや景観の保全などを旨とし、県民協働により整備します。

- 新たに ○クマ等の野生動物の移動経路となる河岸段丘等での里山林整備
- 拡充 ○地域のニーズに応じたきめ細かな支援の継続



整備により明るく見通しが良くなった里山



繁茂した、モウソウ竹を整理し、タケノコ生産に利用



県民参加による里山林の整備



里山資源の利活用の推進

とやまの森を支える人づくりの推進

森づくりの年間参加延べ人数 目標 13,000人

森林ボランティア活動の支援

とやまの森づくりサポートセンターによる、森づくり活動に必要な機材の貸出しや、安全講習など、森林ボランティア活動を専門的・総合的に支援します。

拡充

- オンライン森づくり塾によるボランティア活動支援



森づくりボランティア交流会



ボランティアによる植樹活動



森づくり塾の開催

森づくりへの理解を醸成する取り組み

児童、生徒など広く県民を対象とした「森の寺子屋」の開催や、県民が企画し実践する森づくり活動への支援、森づくり情報の提供などを行います。

新たに

- 一般県民向けの公開講座などの開催

拡充

- 3密を回避できる森林空間の利活用の促進
- SNSを活用した広報や事業地のオープンデータ化
- カーボンニュートラルに寄与する森づくりを発信



「森の寺子屋」の開催



県民が企画・実践する森づくり活動

森林資源の循環利用の推進

森づくりにつながる県産材利用の推進

公共施設等の木造化等や県産材遊具の導入支援、木育の推進など、森林資源の循環利用を進めます。

- 公共施設等の木造化・木質化や木製品の導入等を支援

拡充

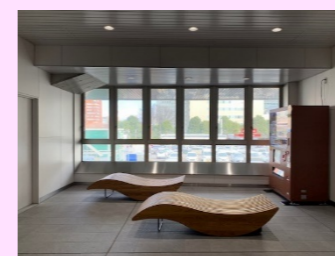
- 木育を推進するための出前講座の開催など



県産材を使用した内装の木質化



県産材遊具の設置



県産材を利用した備品の導入

必要な事業費と水と緑の森づくり税

森づくりの取り組みに必要な事業費 39.8億円(10年間)

【課税期間】

令和4~8年度まで5年間の延長

【税額】

《個人》年間500円
 《法人》資本金等の額に応じて、年額1,000~100,000円(下表のとおり)

資本金等	税額(年間)
100億円超	100,000円
50億円超	80,000円
10億円超	40,500円
1億円超	6,500円
1千万円超	2,500円
1千万円以下	1,000円

※年間税収総額 3.9億円